

**久留米広域連携中枢都市圏
令和2年度ビジョン懇談会全体会 議事録
(Web 会議及び書面会議)**

(1) 日 時：令和2年12月21日(月) 10:00～12:00

(2) 開催方法：Web 会議及び書面会議

(3) 出席者

【Web 会議】

座 長：世利洋介委員

副座長：新井真実委員

委 員：諸岡佳紀委員、實藤俊彦委員、赤尾哲之委員、古賀亮史委員、小田好一委員、
鯉谷彰委員、大西貴史委員、高橋英二委員、吉岡マサヨ委員、北島克彦委員、
竹尾恵介委員、川原久明委員、有馬彰博委員、飯野直美委員

<事務局>

今田広域行政担当参与、中村総合政策課主幹、樋口主査、竹下主任主事

<構成市町>

大川市、小郡市、大木町

<ワーキンググループ職員>

※ワーキンググループは以下 WG と表記

【書面会議】

委 員：森山有希子委員、緒方博子委員、神代眞澄委員、船津將義委員、高木亜希子委員

(4) 次第及び議事： [○…委員質問・意見 ●…事務局等回答]

項目1 現久留米広域連携中枢都市圏ビジョンに係る進捗状況について
(1) 令和2年度事業進捗状況について
[令和2年度事業進捗状況について説明] 意見等なし
(2) 令和3年度事業実施方針について
[令和3年度事業実施方針について説明] ○(ウ)圏域全体の生活関連機能サービスの向上分野における事業数が、令和2年度に比べ1事業減っている件について説明してほしい。 ●No43の光ファイバ整備事業(参考資料8ページ)が、令和2年度で終了したため、1事業減っている。 ○光ファイバ整備事業等によりハード面は整備されるが、5Gの普及・推進等を見越したICTの活用についての研究が必要と思うがどう考えているか。 ●ICTについては、ICT推進研究会において、まずは知識習得、情報収集を中心に取り組んでいる。 ○特段の事業としては設けないという理解で良いか。 ●まずは、同研究会の活動の中で何かできたらと考えている。 ○ICTについては、研究会を立ち上げ、スマートシティについてのキックオフ事業も実施された。進捗状況を見ながら、できたら広域ビジョン事業として取組んでほしい。 ○「魅力ある観光商品づくり事業」について、R3事業実施方針で具体的な方針を出していただき

たかった。土地や地域の歴史と結びつけた商品や他県・地方とのコラボ等、本当に今皆さんが何を欲しているのか時代に沿った商品を望む。

○「文化芸術に触れる機会の提供」について、コロナ禍の中で室内というより、野外にて生のプロの演奏が聞けるように公園等を利用した（コロナ対策を設けた）イベントを期待する。

○熊本県がすでに取り組んでいると思いますが、域内で業態変換に関する給付金の活用等について検討すべきではないかと考える。異業種連携等についても目的を事業継続よりも、業態変換の方で進める方が良いのではないだろうかと思う。

○新規就農者向け・女性農業者向けの事業について、情報発信についての研修も入れてはどうか。農業というフィールドでは、男性よりも女性の方が横のつながりを作りにくいと思うので、少しでも出会う機会を増やすことができると感じる。

項目2 次期久留米広域連携中枢都市圏ビジョンについて

(1) 現ビジョンの中間評価について

〔現ビジョンの中間評価について説明〕

質疑なし

(2) 次期ビジョンにおける連携事業のあり方について

〔次期ビジョンにおける連携事業のあり方について説明〕

○インターネットショップ活用地域経済活性化事業が廃止される方向というのが気になっている。自分は東京の展示会に出展しているが、実際の展示会とオンラインの展示会が平行して開催されている状況。中小企業は自力でPRすることは中々難しく、PRする場所がどんどん無くなって来ている。オンライン展示会等を利用して、ぜひ広域圏でPRする策を考えてほしい。

○目指す将来像「住み続けたい、暮らしてみたい、訪れてみたい」の目標に繋がる施策の色分けをすると、適切なKPIの設定ができるのではないかと考える。また、施策間を繋ぐ、横串を刺したような施策なり体系整理を示してほしい。ビジョンの構成もそのようにしてほしい。

○観光分野について、今後コロナ禍の中で段々外に出る人は少なくなって、通常のイベントは出来なくなってくる。Withコロナで考えると、観光客に来てもらわなくても、魅力発信など観光をどう繋いでいくか考える必要がある。5Gやネット環境を活用した観光の取組みを連携して研究できたらと思う。

○現ビジョン事業の中で廃止になった「圏域農産物の販売力強化事業」と「歴史遺産等活用事業」について、廃止になった理由をお聞きしたい。

●圏域農産物の販売力強化事業を廃止とした理由は、これについては現在うきは市と連携し、福岡市において柿をトップセールスを行っているが、他の市町とは中々連携がとれていない状況。それは共通の農産物が中々ないため、広がりがない。そのため広域的な取組みからはずしたものである。

●歴史遺産等活用事業を廃止とした理由は、以前から北筑後文化財行政連絡協議会（久留米市・小郡市・うきは市・大刀洗町）の枠組みで同様の事業を実施しており、そちらの方に一本化するためである。

○鉄道事業はコロナの影響を強く受けており、今後の経営状況は厳しいものになっていくと考えている。IT等の新技術を活用して抜本的に見直していく必要があると考えている。このような中、今後の地域公共交通の取組は、MaaS（マース）等に代表される「移動手段の最適化」を進めていくことと思う。将来的な交通サービスのあり方を検討するような事業があっても良いのではないかと。

○病児保育事業は、指標を大きく上回って目標達成しているのに定員数を増やす理由は整理しておいた方がよい。また、交通分野では、乗務員の不足などから路線の整理をせざるを得ない状況になってきている。その場合、バス停までのアクセスや別の交通モードの検討など、様々な交通モードを組み合わせながら最適なルートを検討していく必要がある。

●病児保育については、ご指摘のとおり目標値は上回っているがニーズは増している状況であり、ニーズの状況を踏まえて適切な対応を取っていく。

○地元企業採用支援事業について説明願いたい。コロナ禍の状況でオンライン合同説明会が多く開催されているが、人手不足のなか学生の間口が広がることになるので、ぜひ回数を増やしたり、参加者を増やす工夫を今後も継続してほしい。この事業の対象は大学生のみか。高校生はどうか。また、地元支援の視点から、I、Uターン者については今後どのような対応をしていくのか教えてほしい。

●合同説明会については、今までは対面式だったが、今年からズームを活用した合同説明会を開催した。今後は対面、非対面の両方の方法で実施する予定である。回数を増やすことも考えている。オンライン開催とすることで全国どこからでも参加できる形で実施したい。

○次期ビジョンの策定方針について、各課題の把握についてはどのようにされるのか。例えばアンケートを取るのか。また、新規事業を検討するに当たり、今までのようにワーキンググループを進めていくのか。具体的な策定手法について教えてほしい。情報発信、Wi-Fi など、環境整備も重要になってくる。そのようなことも検討できるのか教えてほしい。

●課題の認識や今後の進め方ですが、先ほどの中間評価や当懇談会のご意見等を踏まえて、事業を展開していきたい。進め方はワーキンググループを中心に事業を組立てて進めていきたいと考えている。IT や Wi-Fi などの環境整備については、ICT 活用推進研究会を通じて、各市町や担当課と協議しながらやれるところから進めていきたい。

○圏域のいろいろな特産品を生かし、圏域としてのふるさと納税の返礼品を構築したらどうかと提案していたが、どのようになっているのかお尋ねしたい。

圏域自治体が、共通で扱える返礼品、また共通で PR できる返礼品ができればと思う。

●ご提案を踏まえて、事務局と圏域市町のふるさと納税の担当者と協議を進めているところで、方針等が決まれば報告したい。

○ぜひ前向きに検討してほしい。

○観光について、以前はインバウンドをメインに準備を進めてきたが、コロナ禍でインバウンドは難しくなった。ではどんなターゲット、観光客を、地域として誘致していきたいのか考えがあればお聞きしたい。

●ターゲットについては、コロナ禍の中マイクロツーリズムから立ち上がっていく方向性は久留米市としては持っているが、圏域全体としてどういう取組みをしていくかは、これからの観光動向を見ながら検討したい。過渡期である with コロナの今としては、近隣客、また福岡市までは観光客が来ているのであれば、その方々をいかに取り込んでいくのか。そういったところから取り組んでいく。

○3点要望したい。1点目は地域医療、ぜひとも医療連携を進めてほしい。2点目はコミュニティバス、実証実験中だが継続してほしい。3点目は人材育成、特に保育士が不足している。力を入れてほしい。

○筑後の12市町が参加されている筑後田園都市推進評議会の事務局を担っている。共通課題について連携して対応していく趣旨も似通っている。次期ビジョンの策定の際には、より広域な筑後

田園の方と棲み分け、あるいは協力しながら、よりよいビジョンを作っていただきたい。事業を具体的に検討される際には協議させていただきたいと思っている。

○美術鑑賞事業については、そもそもの課題として現場のカリキュラム、移動手段、移動時間等の問題から、一斉に来ていただくインリーチ方式は難しい状況にある。さらにこのコロナ禍の中では、アウトリーチあるいはオンラインでの事業展開が必須になってくると思う。ぜひ形を変えてでも子供たちが文化芸術に触れる機会を作ってほしい。具体的な事業プランがあれば教えてほしい。

●美術鑑賞事業については、今後は引き続き招待型の事業に取り組みながら、併せてアウトリーチ型の事業展開についても検討していく。

●懇談会終了後でもお気づきの点や補足意見などありましたら、事務局の方までお寄せください。

○観光振興は、資源開発（商品づくり）、受入環境整備、プロモーションの3つの面から取り組む必要があり、今後の具体的な事業内容の検討にあたっては、この3点から組み立てていくと良いのではないかと。

○美術館鑑賞について、感染の状況によっては、今後も美術館への来館が困難な事も予測されますので、美術館見学の代替措置として、学校にいながら、オンラインで鑑賞できる仕組みづくりや、学芸員が学校に行く体制を検討していくことも必要ではないかと思う。

○圏域が持つ課題としてあげられている、人口減少、地域経済縮小、SDGs、労働力の低下など、4つの視点から次期ビジョン策定をお願いしたい。特に、圏域の若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる「結婚、子育て環境づくり」に取り組んでいただきたい。

○MICE 関連で広域観光連携事業に統合されているが、コンベンション協会との連携による学会の誘致など「久留米シティプラザ」を活用した賑わい創造事業の取組みがあっても良いのではと思う。

○久留米シティプラザでスポーツのパブリックビューイング等を利用し、久留米市外の場所でも鑑賞できるような取組みが考えられないか。

○コロナ禍でも特に第一次産業の現場は、高齢化していくと思うので、その中で後継者が生まれるモデル、助成や新規の方が就農していけるモデルを域内でも情報共有し、継続的に提示していただけたら良い。

○労働市場では、地場の事業所については条件のミスマッチが大きいように感じている。事業者側が整えないと子育て層・若年者層は定着しない。その年齢層が定着しないと人口は減少し続けるだけだと思う。地域性もあるかと思うが、そのあたりが未だに軽視されていると感じる。モデルケースがもっと広く認知されると良い。

項目3 その他

○今後の人口減少、超高齢化が加速し人口減少傾向にある中、若い世代の結婚、子育てへの環境づくりも重要な課題と考える。

○久留米は、高校まではトップクラスの学校や全国屈指の医療都市なので、大学等へ進学するタイミングでいったん外に出て行ったとしても、福岡都市圏まで含めた通勤圏内に若者にとって魅力的な就労先があれば再び戻って就職するということが大きな選択肢になってくると思う。若年層に対してしっかりと情報を伝えていっていただきたいと思う。一方で、就労条件を整えるということも、必要であるため、こちらの情報発信、行政としてできるアプローチも並行してお願いしたい。